

平成 29 年度 第 2 回 教育課程編成委員会 報告書

1. 日時：平成 29 年 3 月 30 日（木） 16 時 00 分～17 時 00 分
2. 場所：日本福祉教育専門学校 高田校舎 221 教室
3. 出席者：委員 金川 宗正（社会福祉法人敬心福祉会池袋敬心苑 施設長）
委員 渡辺 祐介（公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会）
委員 金井 直子（ソーシャル・ケア学科 学科長）
委員 平野 夏子（社会福祉学科 学科長）
委員 細野 真代（介護福祉学科 専任教員・八子久美子学科長の代理）
事務局 寺澤 美彦（教務副部長）
事務局 鈴木 達也（教務課係長）

議事

1. 各学科の育成人材像、カリキュラム編成に関する振り返り

(1) ソーシャル・ケア学科（金井）

<育成人材像>

- 政府政策について熟知していること。
- 社会福祉を実践できる知識や対人援助技術があること。
- エンパワメントができること。
- 地域連携、ソーシャルアクションが出来ること。

<今年度の取り組み>

現在、社会では地域包括ケアが求められている。当校のソーシャル・ケア学科は社会福祉士と介護福祉士を養成する学科だが、地域包括ケアをめぐるには地域包括ケア+介護支援専門員、地域包括ケア+理学療法士が求められており、地域包括ケアの中で求められる社会福祉士・介護福祉士像の研究が十分ではない。地域包括ケアに求められることはコミュニティーケアであると考えている。

今年度は社会福祉士・介護福祉士の資格取得を目指す学生に、地域福祉について学んでいただくという事で1年間指導した。

地域福祉を学ぶために、「総合福祉」の授業の中で災害介護の視点から地域にかかわることにした。4年生が中心となり、実際の避難通路を歩きながら危険な箇所や町の構成を調査した。

7月には「災害介護」というテーマで外部講師による講義を実施し、実際に災害にあった場合、どのような状況になるのかのシミュレーションをおこなった。それを基に学生自身で災害介護について調査した結果の振り返りをおこなった。

10月には豊島区社会福祉協議会の区民ミーティングに参加した。ミーティングには地域の方や施設の方、専門職の方が参加し、豊島区民の地域福祉活動計画に基づき、高齢者介護予防センターの活用というテーマでワールドカフェ方式の討論をおこなった。学生は討論がスムーズに進むよう、書記や司会を担当した。

地域福祉を学ぶということで、実際の地域住民の立場から防災や街づくりを考える機会は少なく、区民ミーティングに参加して地域住民の方とコミュニケーションを取ることでより多くの学びを進めていけたのではと思う

1年間の学びで得た成果を、平成29年6月の敬心学園学術研究会でポスター展示する予定。
4年生は受験対策が入るため、学術研究会でこの成果を下級生に展開していくことが今後の課題。

(2) 介護福祉学科（細野）

<育成人材像>

- 介護を軸としてしなやかな柔軟性のある介護福祉士の養成
- マネジメント力、コミュニケーション力、専門性の高い介護福祉士の養成

<今年度の取り組み>

マネジメント力について

- ・マネジメント力を養うため、「マネジメント論」を1年間に15コマ実施。
- ・ケアマネジメントや介護予防、自分自身のストレスマネジメントを学ぶため、メンタルケアの専門家による講義を実施。

専門性の高い介護福祉士の養成に向けて

介護福祉士の基礎を学びつつ今後の社会から求められる介護福祉士を養成するため、様々な資格を取得させる方針の基、科目編成を行っている。

今年度はオープン科目「総合福祉セミナー」にて、介護+αの学びとして介護ロボットやIT企業、福祉施設等と連携を取り、新たな仕事の魅力や可能性について講義をおこなった。

なお、今年度はオープン科目として実施したが、来年度からは必須授業となる。

各分野の専門家による特別講義を実施

しなやかな柔軟性のある介護福祉士養成のため、専任教員の授業に様々な分野の専門家を招聘し、特別講義を実施した。

（主な実施内容）

- ・当事者による講演
- ・盲導犬によるデモンストレーション
- ・ユニバーサルファッション
- ・卒業生講演
- ・現場の介護職による講演

<来年度に向けて>

国家試験について

平成29年度から、介護福祉士になるには国家試験を受験するか所定の期間実務経験を積む必要がある。校では国家試験合格率100パーセントを目指し、国家試験対策等を実施していく。

留学生対応について

留学生に対するサポート体制強化のため、日本語サポートの講師を採用し、学習指導を実施する。

3) 社会福祉学科 (平野)

<育成人材像>

介護の仕事をしながら音楽・手話を活用できるような人材の育成

福祉を学ぶ、福祉で仕事をするという意識が曖昧で、音楽手話が好きで入学する方が多い中、2年間で福祉を学び、介護の仕事をしながら音楽・手話を活用できるような人材育成を目指している。

<社会福祉学科の現状>

- ・ここ数年の入学人数は25名～30名で推移している。
- ・卒業後の就職先について

音楽療法コース・・・介護系が半分、残りが児童や障害者支援に就職しており、音楽療法を生かせる環境に就職している。

音楽療法士の求人は増加している。介護職として就職し、3年程度経験を積むことで介護の仕事に音楽活動を生かすことができている。

手話通訳コース・・・手話通訳士になるためにはスキルが不十分であるのに、介護職として就職することに抵抗を感じている学生がいる。今後の就職指導が課題である。

<今年度の取り組み>

当校が地域交流の一環としておこなっている「認知症カフェ」に社会福祉学科の学生が参加し、コミュニケーションツールとして音楽や手話を活用している。また、豊島区からの依頼を受け、豊島区が実施している複数の認知カフェに参加している。今後は地域包括につながっていけるように学科として取り組みたい

4) 言語聴覚療法学科

中山学科長が所用により欠席されたため、事前に報告を受けた言語聴覚療法学科の育成人材像と取り組みについて事務局から説明した。

以下、報告内容

平成28年度学科構想の振り返り

平成28年8月3日に行われた「平成28年度第1回教育課程編成委員会」(日本福祉教育専門学校 高田校舎 221 教室)において、言語聴覚療法学科の育成人材像とカリキュラムの特徴、特別講師の講義についての説明を行った。育成人材像とカリキュラムの特徴としては、言語聴覚士の人材不足という現実

的な問題に伴う、即戦力となりうる臨床能力を獲得するための教育内容が必要であること、そのため問題解決型学習を多く取り入れた授業展開をしていること、奉仕の心をはぐくむことが大切でありボランティア活動に積極的に参加するよう教育を行っていることなどを報告した。また言語聴覚士の養成に最低限必要な指定科目以外の科目も他校に比べ多く行っており、特別講師を招いての授業（大学病院の嚥下障害認定看護師を招き、誤嚥・窒息など特有の問題にどのように対処するか実演を含めた授業など）も展開していることを報告した。その他、医療現場の見学などもできる範囲で機会を作り、学生の理解を深めていることも報告した。

意見交換の場で、チームアプローチでの指導、嚥下障害に関する仕事量の多さに対応できる指導の徹底を行うべきといった指摘があった。これに応じる形で、今年度後期の学科教育の中で、チームアプローチを学問として把握し、チームアプローチの分類と適応を考え、特に近年多くの現場で推奨される「相互乗り入れアプローチ」を成功させるために必要な心構えを能動的に学ぶ時間をとった。

【意見交換】

- ・人材育成は学校だけでなく、現場と連携しておこなっていく。福祉職としての基本的なマナーとルールを在学中に身につけさせたい。(金井)
- ・新しい取り組みを実践し、社会に求められる介護福祉士を養成してほしい。(金川)
- ・現場としては、介護職が音楽療法を取り入れたプログラムを実施していると助かる。(金川)
- ・地域包括ケアで求められるのは他職種との連携である。職種間の連携が取れる人材を育成したい。(金井)
- ・ソーシャル・ケア学科では出来る学生と普通の学生、出来ない学生の3層に別れている。普通の学生を出来る学生に引き上げることが、国家試験合格率向上へのポイントとなる。(金井)
- ・平成29年度から介護福祉士の国家試験が必須となるため、対応が求められる。(金川)
- ・退学率抑制のため、新入生のプロフィールを事前に確認した上で学生の指導をおこないたい。(金井)

以上